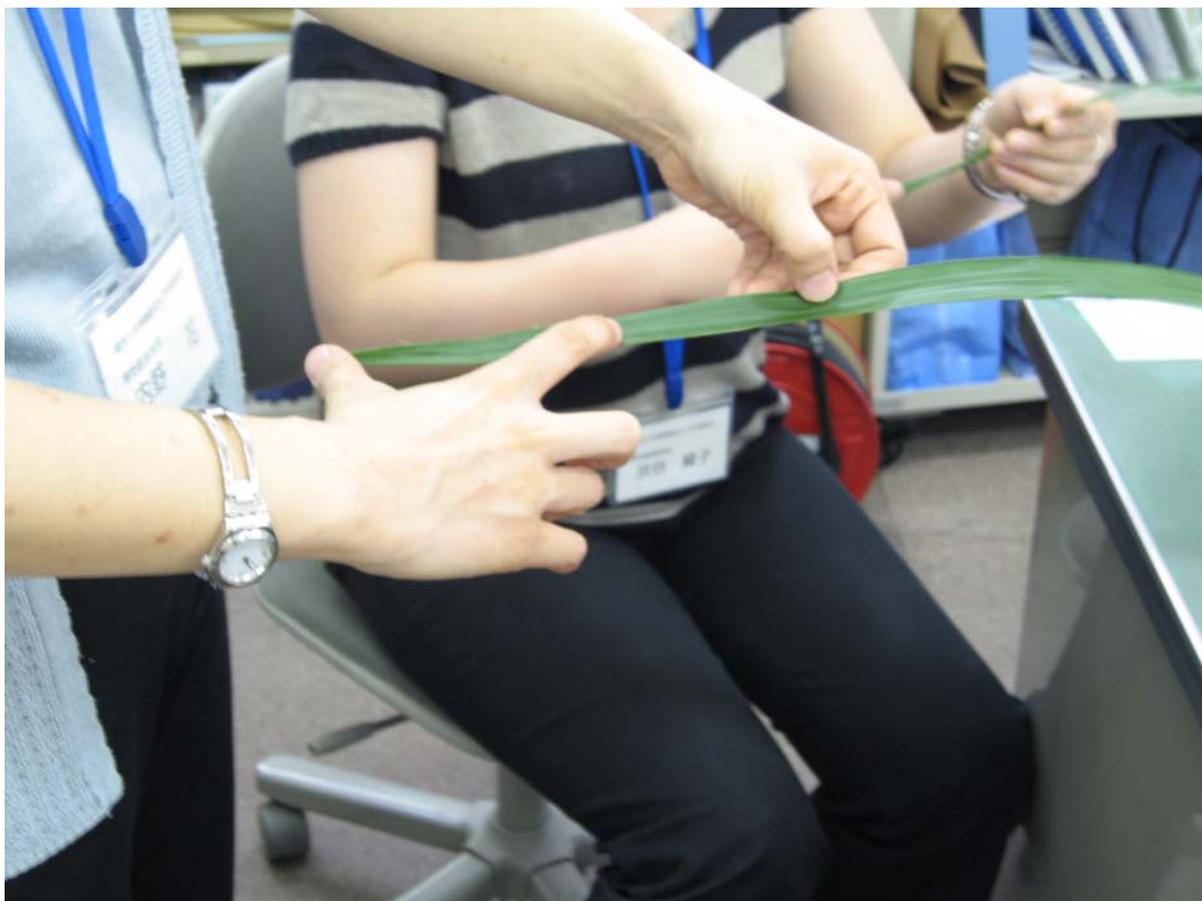
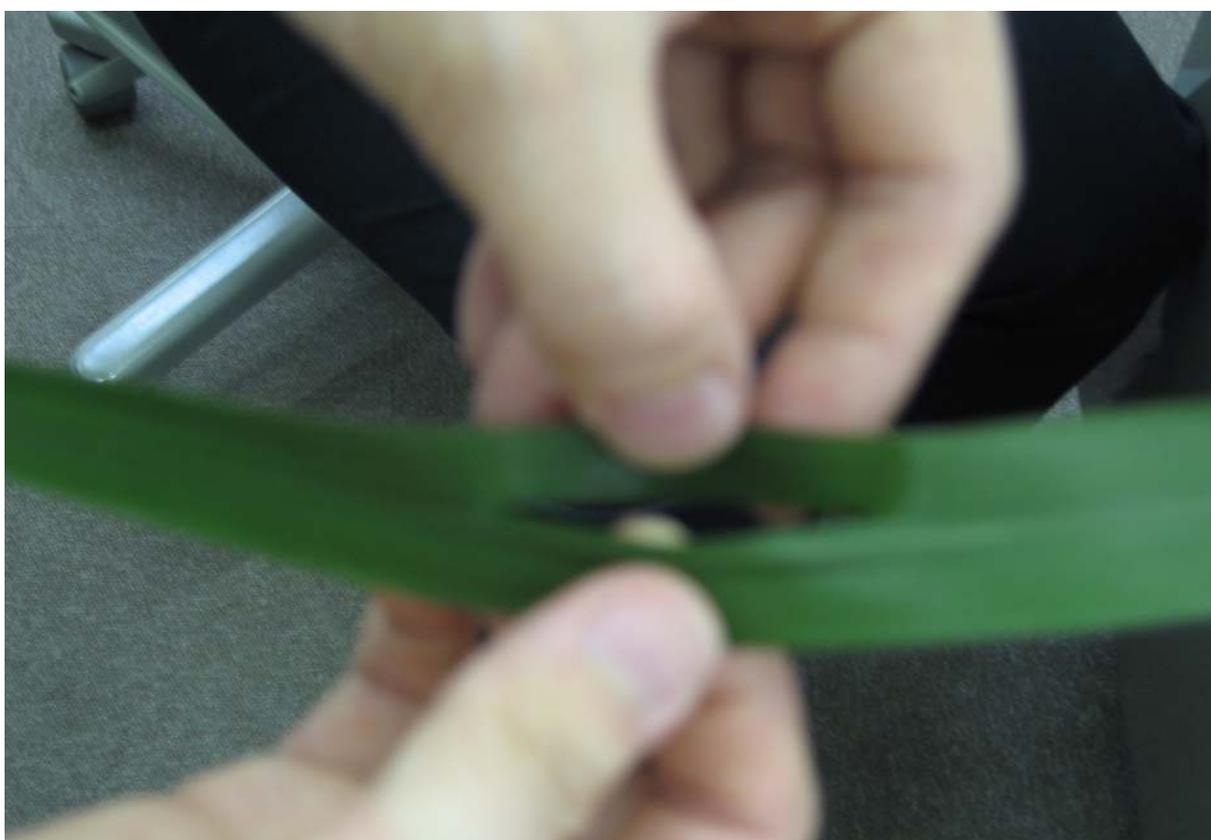


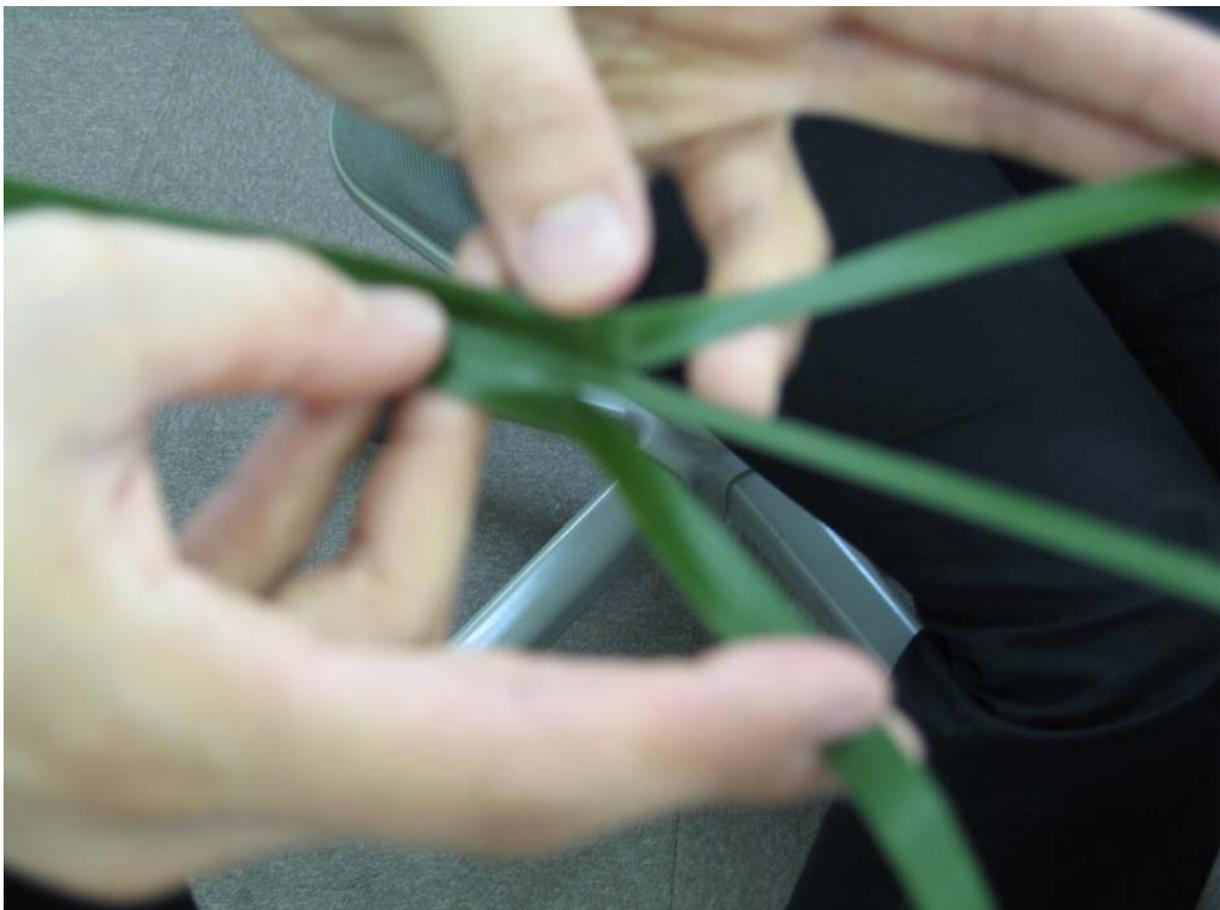
【ばったの作り方】



しゅろの葉っぱを1本とります。根元から10センチぐらいを残して、葉脈（芯）を中心に3つ（左葉・芯・右葉）に裂きます。



葉脈（芯）は、真ん中からはずしていくときれいに取れます。



根元を 10 センチほど残して、3 つの部分（芯・左葉・右葉）に分けたら、バットの胴体を編んでいきます。まず、葉の裏（白いほう）を表にして根元側を左手にもちます。



芯を折り返して輪をつくり、根元部分に挟み込みます。



手前の葉っぱを、芯の下方から芯を包む込むように巻き絞ります。このとき、奥の葉を巻き込まないように注意してください。また、葉は常時裏側（白いほう）が表に向くように。



今度は、根元が右側に向くように右手に持ち替えて、同じように下方から芯を包み込むように巻きます。こちらも葉はかならず裏側（白いほう）が表にできるようにしてください。



改めて根元部分を左側に持ち替えて2回目の編みこみをはじめたところ。
葉は、必ず裏側（白いほう）が表に出るようにします。また、芯に巻きつけたときに根元側の
巾に揃えるようにきちんと葉を折り込むと完成時にラインがきれいにそろいます。



左右交互に編みこんでいきます。



ひっくり返して、裏からみた図。





先端の残りが 10 センチぐらいになったら、編み止めます。
残った先端部分は、前足と触覚になるので、芯の輪に差し込みます。



芯の先端部分（尻尾側）を引っ張って、輪の弧を少し引き締めます。



編み止めたところから3センチくらいのところを、背側から切り目をいれ触覚を作ります。このとき、切り離さないように注意してください。



切り目をいれた側を先端に向かってゆっくりと裂いていきます。



触覚のできあがり。



残った根元の部分を反対側に裂き、輪の外に出して前足をつくります。





しっぽ側の芯の先を引っ張って、胴体を引き締めます。





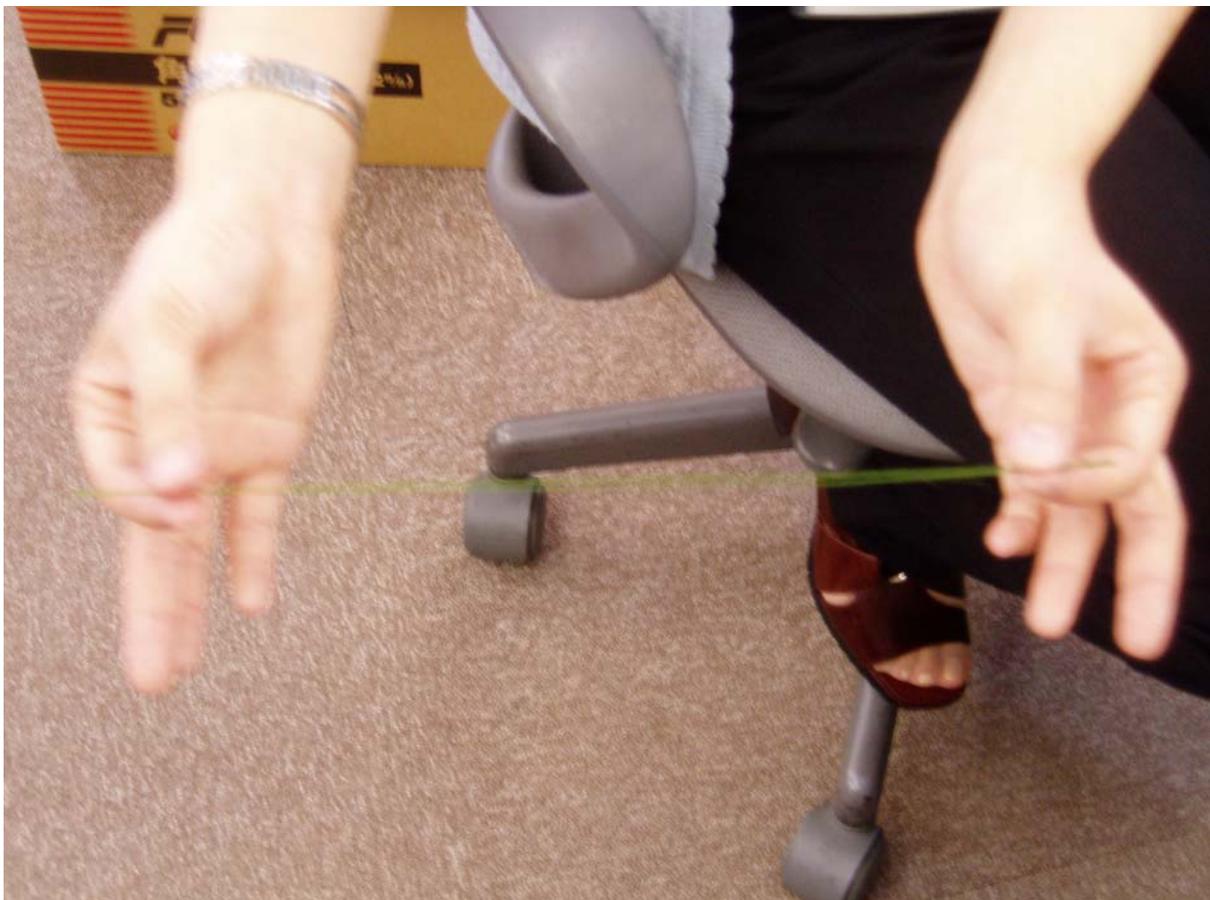
しっぽをカッコよくバツらしくカットします。



ななめに切り目をいれるとばったの感じがよくできます。
このとき切り離れた芯は、後ろ足に使うので取っておきます。



裏側からみた図



しっぽを切ったときに残しておいた芯。真ん中から2つに切ります。



半分に切った芯の1本をさらに半分に折込み、ばったの胴体の先から3分の1のところ差し込みます。



足らしく見えるように、関節を2箇所折り曲げて作ります。
残りの1本は、胴体の先から3分の2のところに同じように差し込みます。



出来上がり図

